SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	渡辺 千晴	学校名	習志野市立香澄小学校
実施学年	5学年	教　科	家庭科
単元名	小学校5年家庭科「買い物の達人になろう（生活を支える物やお金）」		

≪学びを深めたいポイント≫

本単元では、児童が計画的な金銭の使い方や、目的に応じた物の選び方を身に付け、よりよい消費者としての基礎的な資質・能力を育成することをねらいとしてる。そのため、学びを深めさせたいポイントとして以下の3点を挙げる。

1、「なぜ買うのか」を明確にし、理由（様々な視点）で選ぶ判断力を養う。

感覚的な「欲しい」という衝動ではなく、「家族のため」「値段が安い」といった明確な目的や価値に基づき、値段、品質、量、などといった情報を総合的に比較検討する力を確立させる。これにより、自己の生活状況に照らし合わせて最も適切な物を選び出す判断力を養う。

2、買い物の仕組みを理解し、消費者としての責任や自覚をもつ。

買い物が、単に物とお金を交換するだけでなく、売買契約という社会的な仕組みであることを理解し、代金を支払うことの重みや、情報を正確に読み取る消費者としての責任を自覚することで、自分の消費行動がもつ社会的な意味を考える。

3、環境・社会にも配慮した持続可能な消費行動に目を向けさせる。

自分の消費行動が、ごみの問題（環境）や生産者の労働（社会）といった外部にも影響を与えていることを意識させる。「エコマーク」「詰め替え」「食品ロス」などの具体的な視点に目を向けさせ、物や金銭を大切にする心情と環境に配慮した実践的な態度を養う。

≪SKYMENU 活用のポイント≫

【観点の確認】

・発表ノートに商品を選ぶ際に重要となる観点（値段、量、デザイン、好みなど）を児童自身に確認させ、記述させた。

【情報収集と整理】

・発表ノートの「資料置き場」にあらかじめ用意した商品（お菓子）の画像と情報（値段、量など）から、必要な情報を読み取りながら、自分の目的（誰と食べるかなど）に合った組み合わせを考えさせた。

【思考の可視化】

・選んだお菓子の決め手となった観点やその理由を発表ノートに記入させ、自身の考えを明確にまとめさせた。

【思考の共有】

・発表ノートが完成した後、プレゼンテーション形式で発表させた。他の児童の発表を聞くことで、考え方の多様性に気付かせた。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	Ⅰ 前時の振り返りを行う。 T 買い物をするときに見る観点はどのようなものがありましたか。	・「資料置き場」に観点を載せておき、いつでも児童が確認できるようにしておく。	・商品を選ぶ際に見る観点はどのようなものがあったのか、写真や表を示し、児童が想起しやすくする。
展 開	2 500円で買えるお菓子の組み合わせを考える。 T 500円で買えるお菓子の組み合わせを考えます。どのような視点や観点をもって考えるといいですか？	・お菓子の情報をまとめたシートを送り、その情報をもとに組み合わせを考えさせる。	・お菓子を選ぶ際にどのような視点・観点をもって考えればよいのか、配付した資料をもとにグループで話し合わせる。話し合ったことは気付きメモに書かせ、組み合わせを考える際の手立てとさせる。
	T 学習した視点や観点をもとに、お菓子の組み合わせを考えましょう。 	・発表ノートに自分の考えをまとめさせる。ノートには選んだお菓子と観点、理由を表記するよう伝える。 ・お菓子は「資料置き場」に載せた商品の中から選ばせる。お菓子の情報をまとめたシートとリンクさせながら活用させる。	・発表ノートには、「商品」「観点」「理由」を記入する欄を作成し、思考を視覚的に整理できるようにする。 ・購入に必要な情報が活用できていない児童がいた場合には、「どうしてその商品を選んだのか」「それは誰が使うのか」「いつ食べるのか」などと問いかけ、気付きメモに書かせることで選んだ理由がはっきりと分かるようにする。
	3 グループで発表・交流を行う。 T 自分の考えをグループで話し合いましょう。 	・友達の考え（画面）と比較し、自分の考えを見直す。	・友達の考えと自分の考えを、画面を見ながら話し合うことで、「別の商品も良く見えた」「同じ商品でも理由が違った」という気付きを促し、多様な観点で考えるよさに気付かせる。

	Ｔ友達の発表を聞いてどう思いましたか。		
まとめ	４ グループの発表をもとに、再度お菓子の組み合わせを考える。 Ｔグループの発表をもとに、もう一度お菓子の組み合わせを考えてみましょう。 ５ 振り返りをする。	・お菓子を選ぶときに考えた視点や観点を振り返るようにする。 ・様々な視点や観点をもって買い物をすることのよさを共有する。	・一回目の考えと比較して再度検討できるようにする。 ・学習の振り返りは気付きメモに記入し、今後の学習にも生かせるようにする。

≪実践を振り返って≫

・お菓子を選ぶときに、「なぜそれを選んだのか」という理由と観点（値段、量、好みなど）をタブレットに書かせたことで、なんとなく選ぶのではなく、しっかり考えて選んだプロセスがはっきり分かった。
・「資料置き場」から写真やイラストを選んで使えるので、様々な組み合わせを考えることができた。
・タブレットでまとめたものを発表し、みんなで共有したことで、様々な考え方があることに気付き、多様な観点で考える力を養うことができた。
・教師の画面一覧表示機能で支援が必要な児童へのサポートがしやすくなった。
・ノートに書くのが苦手な児童も、タブレットで入力することで、自分の考えを表現することができた。
・タブレットの記録を見ることで、どの児童がどのような観点で選んでいるのかをすぐに確認でき、全体で共有することができた。
・タブレットを単に「文字を書く道具」としてだけでなく、もっと考えを深めるための便利なツールとして活用できるよう、授業のやり方を工夫していく必要がある。